



東京赤坂ロータリークラブ週報
Weekly Report

2025~2026年度クラブテーマ
会長 鈴木貞史

東京赤坂ロータリークラブ

No.1767 / 2025.7.18

例会 ANAインターナショナルホテル東京
TEL : 03-3505-1111
事務局 〒105-0001 港区虎ノ門1-1-20
虎ノ門実業会館3階
TEL : 090-1478-0254
FAX : 03-3502-7802
<http://www.akasakarotary.com/>

「仲間を増やし、手を携えて」

本日の例会:2025年7月18日 通算1767回 本年度 第3回
日・豪・ニュージーランド協会(元オーストラリア大使) 名誉会長 高橋雅二 氏

第1766回 例会報告 2025年7月11日

出席報告 会員48名 / 出席30名

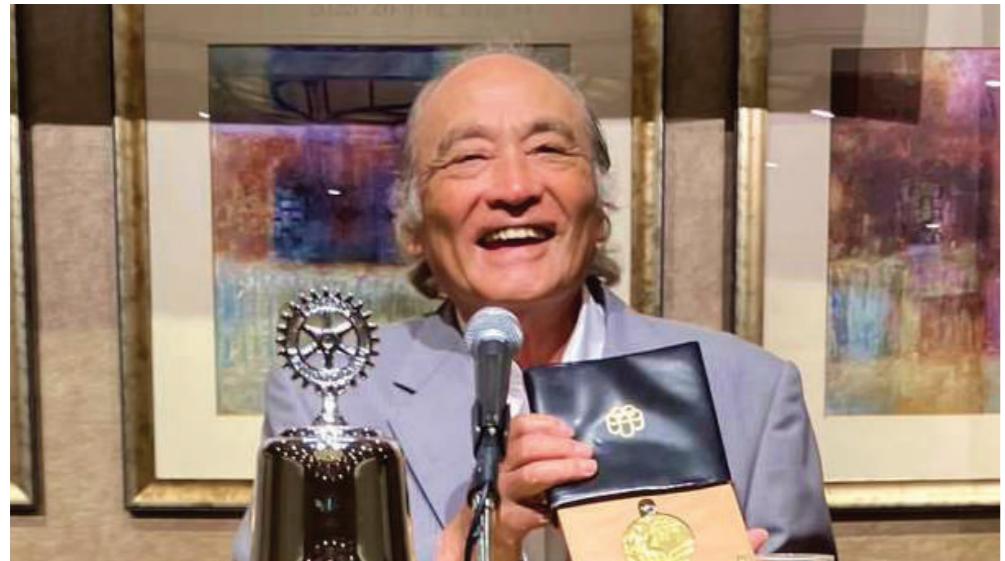
ゲスト 塚原光男
(元オリンピック体操日本代表・金メダリスト)

卓話紹介者 石井謙次副会長



ビジター 末松寿朗 (東京愛宕RC)

テーマ オリンピックと体操競技の進化と精神



今回の卓話は、日本体操界を代表する塚原光男氏による、オリンピック体操競技の実体験に基づくお話をしました。氏は、自身が出場した1976年モントリオール大会での劇的な団体金メダル獲得の舞台裏を語られ、主力選手の盲腸による欠場や、試合中の大怪我など数々の逆境を、チームワークと強い精神力で乗り越えた姿が印象的でした。

また、ご自身が考案した大技「月面宙返り」の誕生秘話や、現在の体操技術の進化と他競技への波及についても触れられ、体操という競技の奥深さを感じられるひとときでした。特に、演技の採点制度や技の難易度設定など、競技の仕組みをわかりやすく解説いただいたことで、体操の見方が一段と深まりました。

講演中には、モントリオール五輪の金メダルが披露され、会場は大いに盛り上りました。スポーツにおける“挑戦と継続”的価値を改めて考えさせられる内容でした。(文責:出川敬司)

■ 会長報告

- コンシニ会員よりフランスのトゥーロンローターとバナー交換した旨報告。
- 7/8に本年度初の火曜会を開催いたしました。詳細は裏面をご覧ください。
- 火曜会に参加すると、より親しみがわくと思いまので、是非参加してください。

■ 委員会報告

親睦活動委員会:出川委員長

- 8/7に暑気払いを開催いたしました。現在16名の参加となっております。まだ余裕がありますのでエントリーください。
- 7/8に火曜会を開催いたしました。週報の充実が話題となりました。

奉仕プログラム委員会:岩上委員長

次週7/18例会後、奉仕プログラム委員会を開催いたします。各リーダーはご参加ください。

プログラム委員会:岸委員長

前期のプログラムは、素晴らしい卓話者を紹介いただき、ほぼ埋まりました。感謝申し上げます。
後期は余裕がありますので、よろしくお願い申し上げます。



7月11日15件30,000円 累計30,000円
多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

鈴木貞史/石井謙次/谷口友保/河邊幸夫/長谷川毅/穂苅裕久/小川大介/西澤民夫/高須康有/岩上義明/金山驍/鳥居久継/コンシニ・ティエリ/山本亮二郎/森本勝好

今後の予定

日付	時間	場所	事項	内容
7月25日	休会			
8月1日	12:30 13:30	地下1F「オーロラ」 ANAインターナショナルホテル東京	例会	卓話:衆議院議員 江田憲司 氏

週報の進化を語る夜～火曜会から見えた未来図～

日時	2025年7月8日（火）18:30～20:30
場所	ホテルニューオータニ東京 ガンシップ
出席者	鈴木、石井（謙）、谷口、淺沼、石井（敬）、岩上、小川、小原、金山、出川、内藤、西澤 計12名（敬称略）

01. 週報について

7月8日（火）の火曜会には、会長・副会長・幹事を含む12名が参加し、東京赤坂ロータリークラブの「週報」について、これからの方針を熱く議論いたしました。

まず話題となったのは、「週報は単なる会報ではなく、クラブの歴史と精神を継承するアーカイブである」という再認識でした。長年、週報や『ロータリーの友』を保管してきたメンバーの経験談が共有され、その価値の深さに一同頷きました。

02. 週報の内容

週報の内容については、三本柱を軸とする案が出されました。

①ARCの活動記録、②RIや地区の情報、③会員の個人的なトピックス。この構成により、クラブ内外に対して幅広く情報発信が可能となります。出産、結婚、孫の誕生などのライフイベントや、メンバーのエッセイ「メンバー ボイス」の掲載を通じて、温かみと多様性のある誌面づくりが提案されました。

03. 週報の媒体

週報の媒体については、「紙+デジタル」の併用が望ましいとの意見が大勢を占めました。デジタルは即時性と保存性に優れ、紙は記憶と感情に残るという利点があります。また、DropboxやGoogle Driveを活用した資料共有体制の整備も検討されました。

04. 制作体制

制作体制では、若手会員の石井敬介さん、内藤あゆさんなどの協力を得て、紙面構成・デザインのリニューアルや外部の協力も視野に入れた柔軟な運用が提案されました。事務局に業務が集中しがちな反省から、コンテンツつくりには全員参加の体制を目指す方針も示されました。

05. その他

さらに、会員交流の観点からも週報の可能性は広がります。新入会員のイニシエーションスピーチ、重鎮メンバーのエッセイ、異業種の最新情報紹介など、メンバー同士の距離を縮めるコンテンツの充実が期待されています。

ユニークな提案としては、週報に「3分で読む過去記事紹介コーナー」や、会員の近況を伝える「ニコニコメッセージ」、さらにはポイント制やクイズ形式での参加型コンテンツなど、楽しみながら読み進められる仕掛けが多数挙げられました。

会の最後には、「週報を進化させることは、クラブの文化と人間関係を豊かにすることにつながる」との共通認識が醸成され、親睦の火曜会らしい熱気と笑いに包まれながら閉会となりました。

今回の議論を通じて、週報が単なる情報伝達ツールから「クラブの心をつなぐメディア」へと進化する未来が、確かに見えてきたように感じられました。（文責：出川敬司）

